

平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076500125		
法人名	有限会社 ケアセンター すずらん		
事業所名	グループホーム すずらん	ユニット名	2棟
所在地	福岡県朝倉市杷木穂坂89番地の1		
自己評価作成日	平成28年9月26日	評価結果市町村受理日	平成年月日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年10月31日	評価確定日	平成年月日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲は、田・畑・果樹園、山並みや筑後川の流れが広がり季節の移り変わりが自然と目に見えています。
押し車や車椅子の方が多く、散歩の時に季節の花や野菜、稲やブドウ、柿の実りを見て楽しんで頂いています。
地域の泥打ち祭り、よど祭りやお大師様などの行事にも参加し地域の方々との交流を深めるとともに、毎月、何らかの行事か外出を計画しホームでの生活を楽しく頂けるようにしています。また、御本人の出来る事はできるだけ御自分でやって頂けるよう支援しています。
主治医やご家族との連絡を密にして、身体機能のレベルが低下した利用者様でも、出来るだけホームの行事に参加していただいたり、個別にドライブ等の外出の機会を設けるとともに、希望する方にはターミナルケアを行うなど、利用者様やご家族が「良かった」と喜んで頂けるようなケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価および外部評価結果

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		各棟ごとに理念を掲示し、毎朝、申し送り時に唱和している。理念の実践を心がけながら、散歩中に地域の方とコミュニケーションをとったり、地元のお祭りに参加したり、施設の行事にお招きしたりして交流をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		お大師様参りで、お茶の接待を受け、会話したり、泥打ち祭りを見学している。また、ソーメン流しや敬老会、餅つき会では、地域の方や子供会を招待し、ご家族も一緒に交流している。特に餅つき会では、地域の方に手伝って頂き、交流を日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		福祉科の高校から一日体験希望があり研修の場を提供した。本人から利用者様と関われて勉強になったと感想を言われた。地域の方に家族認知症の話をして介護用品の必要性を説明し提供した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		2か月に1回、会議を開き、民生委員、市職員、利用者様、ご家族様、老人会会長に出席して頂き、報告や情報交換を行い、意見を頂いた改善点は早期に取りかかっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる		市町村主催の研修に参加した。利用者様の利用条件等を尋ねられた。生活保護受給者のホーム入所の方法等の相談に行った。運営推進会議に市担当者が参加され質問や助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		落ちつかれない時は、声かけし、施設内や外に散歩して頂いたり、会話をしたり、入浴して頂いたり、インターホンを利用して会話をしたりして、常に拘束にあたらないかを意識してケアしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		毎日のケアの中で話し合い、サービス担当者会議で意見交換し、対策や対応を見出し、経過観察や記録をしっかりと行うなどして解決している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族にもパンフレットを準備し、説明している。また、研修などにも参加し、その内容を他の職員と共有できるようにしている。日常生活自立支援事業や成年後見制度などの研修に参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に「利用契約書」「重要事項説明書」「重度化した場合における対応に係る指針」「個人情報保護に関する同意書」を説明し、不安に思うことや疑問に対する事等を回答している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、生活状況報告書、すずらん便り及びすずらん報告をご家族に送り、面会時に日常生活の状況をお話しし記録物を読んで頂くとともに、面会時に意見や要望をお聞きしている。また、玄関に意見箱を設けている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟のサービス担当者会議で意見を聞いている。職員間の意見はその都度、ユニット長が意見を聞き管理者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算届出書を提出している。職員の生活状況に合わせた勤務表を作ったり、産休育休の体制もできている。各資格手当、夜勤手当、介護業務手当を考慮している。研修は勤務扱いとして旅費を支給している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別、経験の有無による制限はしていない。各行事担当者を決めて本人達が能力を発揮し他のスタッフと協力して行っている。初任者研修に参加している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の機会があれば参加し、サービス担当者会議にて報告するようにしている。業務中もご利用者様の行動を把握し情報交換を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため、初任者研修や興味のある研修に参加できるようにしている。研修報告書を提出して、いつでも閲覧できるようにしている。資格所得援助金制度を設け職員の資格所得を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、朝倉介護保険事業者協議会や福岡県社会福祉協議会などの研修会に積極的に参加し、他事業者との交流が実施できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族の了解を得て、ご本人様と面談し、主治医やケアマネジャーなどから情報を聞き、会議の時にケア内容を話し合い情報を共有し、安心して入所して頂けるように準備している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に生活状況をお話しし、記録を読んで頂き、ご家族が不安に思われている事をお聞きし、その都度、安心出来るようにお話ししている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー、ユニット長、利用者様、担当者、その他職員でケアプラン会議を行い、サービス内容などを話し合っている。また、変化があれば、その都度、職員で話し合い、ご本人様が必要としている支援に対応出来るようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や休憩を共にし、会話の機会を増やし、家事などの出来る事は一緒に行い、出来る事を楽しく出来るようにし、「ここで暮らしている」と思えるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に要望を聞いたり、記録の開示をし、状態の報告を行っている。また、月1回、すずらん便り、すずらん報告と生活状況報告書を書面で報告し、ご家族様が可能なら、すずらんでの宿泊をして頂き、一緒に過ごす機会が持てるようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟やご家族との思い出話を聞き、生活環境や地域の事を聞いたりして、外出時、思い出の場所などへ出かけたり、自宅へ行ったりして、写真を撮ったりしている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方々の生活ペースを考慮し、ペースを崩さないようにして、レクリエーションや散歩、行事へ誘ったり、共通の話題を一緒に会話出来るようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様と外でお会いしたりすると、声をかけたり、お話しさせて頂いたりしている。また、亡くなられた方のお葬式、初盆参りに行っている。死亡退所後も年賀状のやりとりをしているご家族様がおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけや会話などから、ご本人様の思いをくみ取り、それが困難な方にはケア時の顔の表情や頭の動きなどで把握するようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーから情報を聞き、入所時にご本人様やご家族様とお話しをして、今までの暮らし方や生活環境をお聞きし、入所してからも昔話などを聞いて、その方の生活環境を知るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別介護手順書にて把握し、利用者様一人ひとりに合ったペースで生活出来るように、体調や心の状態を把握して、ご本人様の出来る事、出来ない事を見極めて理解している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様と面会時や電話で意見を聞き、ケアマネジャーや計画作成担当者が、アセスメント、介護計画を作成し、サービス担当者会議で職員と情報交換している。また、普段から計画作成担当者と話す機会を持ち、日々の状態や課題などを伝え、ケアプラン実行表でチェックし担当者が評価している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、生活記録を記入し、申し送り時に様子を伝え、状態変化や細かい気づきも共有している。また、様子やケアについても、サービス担当者会議などで話し合い共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が病院受診できない時は、施設で行っている。また、利用者様に必要な物をご家族様が持参出来ない時は、ご家族様の了解を得て、施設で準備し、ご家族様へも連絡をとって対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での行事に保育園児や地域の方に協力して頂き、その中で意見やアドバイスをお聞きし、散歩に出たら必ず挨拶し、言葉を交わすようにしている。また、地域の方に入居者様の様子を見て頂けるように面識を持てる機会を設けるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、希望のかかりつけ医があれば、そちらへの受診や往診が出来るようにしている。眼科や歯科などへの適宜受診、往診が出来るようにしている。また、その受診や往診内容や結果について全職員が把握するようにしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携体制をとり、かかりつけ医に相談し、利用者様の小さな異変でも看護師に報告して、利用者様の状態を介護・看護職どちらも把握するようにしている。また、排便状態や夜間の状態も看護師に報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、お見舞いに行っている。病院側との情報交換を行い、得た情報は職員に伝えている。また、退院後はこまめに、ご家族様へ生活状態を報告している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医も含めて相談し、ターミナル同意書や緊急連絡先への記入を頂いている。また、ご本人様やご家族様には、意見や要望を聞き、可能な限り対応出来るように職員全員で情報を共有し、その都度、ミーティングをしている。施設に泊まって頂けるようにした。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で勉強会を行い、マニュアルを作成し、目につくような所に置き、職員一人ひとりが、どのように行動したら良いのかを、各自、頭の中でシミュレーションを行っている。また、看護師や主治医から意見を聞き、応急処置や初期対応が出来るようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回のすずらんでの避難訓練、年2回の消防署立会の避難訓練を行っている。避難場所や通路、物品などは、担当者が定期的にチェックしている。夜間は玄関にスロープを設置している。また、避難した時の体験談を知らない職員に話したりして、常に意識している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強くないように、やさしい口調で言葉かけをするようにしている。また、利用者様の気持ちを考え、不快にならないように心がけている。方言や昔の言葉等で会話している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のやりたい事、していただきたい事をいくつか提示して、ご自分の意思で選ぶ事が出来るようにしている。また、ご本人様からご要望があれば、ご本人様のペースでして頂けるように見守り、対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい時は、職員と一緒に外へ出て頂くようにしている。また、施設の一日の流れが同じにならないようにレクリエーションに色々な事を行ったり、希望の過ごし方があれば、希望どおりに過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみは、毎日、職員が気をつけて整えている。また、ご家族の了解を得て、白髪染めをしている。ご本人様の希望で、お化粧をしたりもされている。散髪は専門家にすずらんに来て頂き、髪の毛の伸びている方と希望の方に利用して頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の希望の物をお聞きして、ホーム菜園でとれた野菜など使い、季節に応じた料理の下ごしらえなどを一緒にしている。また、食事中はテレビを消し、利用者様同士や職員などと会話をされながら楽しく食べられている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせて食事の形態を変え、必要な時は水分量を測り、記録も行っている。また、食事が進まない時は経腸栄養剤を飲んで頂き、嚥下困難な方には、トロミを使用している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は行って頂いて、職員が仕上げやチェックを入れている。出来ない方は職員が介助し、口腔内ウエットティッシュを使用している。うがいが出来ない方は、白湯を飲んで頂くようにしている。義歯については、夕食後、毎日、ポリドントにつけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意の訴えがあればトイレ誘導を行っているが、訴えない方には時間を見て、必ず声かけしトイレ誘導を行い、24時間の排泄記録を記入し、排泄パターンを把握出来るようにしている。また、オムツを使用している方には、時間を見てオムツ交換を行ったり、尿臭や便臭がした時は時間に関係なく交換している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや根菜類や便通に良い物を食して頂いたり、水分をとるように心がけている。排便状況を記録し、体調管理を行っている。また、必要に応じて主治医に相談し、服薬での排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行い、その日の体調や受診、外出の予定を見ながら、ご本人様の希望で湯船かシャワー浴を行っている。また、二人介助が必要な方には、二人介助で湯船につかって頂いている。入浴中は職員と会話し、ご本人様の思いを聞き、冬至には季節感を感じて頂くためにゆず湯をしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様が休みたい時に休んで頂き、一人ひとりの体調を見ながら、居室の温度調節を行い、無理のないように居室臥床して頂いている。また、体調も考え、ケアプランに入れ、体調管理をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員が目を通せるようにし、副作用や注意事項は、申し送りで周知徹底している。そして、声に出して確認し誤薬がおきないようにしている。また、錠剤が服用出来ない方には、粉にして服用して頂いたり、トロミに混ぜたりして服用して頂いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方は、洗濯物たたみや食事の下ごしらえなどを手伝って下さっており、体を動かす事が好きな方や歌が好きな方には、CDをかけ歌を歌って頂いたり、一緒に体を動かしたりして頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調に応じて散歩に出られるようにし、季節ごとにドライブへ行ったり、ご家族様の送迎でご自宅へ戻ったり、食事へ行かれたり、職員と買い物へ出かけたりされている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を自己管理することが難しくなってきたので、管理は家族が行っている。外出先で希望する品物があった場合は、ホームで立て替えて買い物をして頂いている。立替分は後日、家族へ請求している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様あての電話があれば、直接お話しして頂いたり、暑中見舞いがご家族様から届くと、職員とお話ししながら読んで頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には、その季節の飾りを掲示し、外出時や行事時の写真を飾っている。また、テーブルなどには、季節の花などを職員が持ってきたり、利用者様と外に取りに行ったりして飾っている。キッチンも対面式キッチンで、料理を作る職員と会話を楽しまれ、キッチンの光りは天井のカーテンの開閉で調整している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビ前にソファを設置し、好きな所に座って頂き、入居者様同士で会話されたり、職員も一緒に座って会話し昔話などをして過ごしている。また、お茶やお菓子を出して、会話が弾むようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様の写真を貼ったり、思い出の家具を置いたり、ぬいぐるみなどを飾ったりして頂いている。また、ラジオを聞かれたり、居室からは、季節の花やキンカンや柿などの実がなる木が見えるようにしたり、利用者の好きな色の花を植えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはベッドや畳にし、一人ひとりの身体状態に合わせて変えている。また、テーブルは個人の使いやすい高さを考えて個別に用意している。車椅子もリクライニング車椅子を使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		